

地域の子ども達の学習格差をなくす「美術と学び」支援事業 2019



特定非営利活動法人

山王学舎

sanno-gakusha

事業報告

2020年4月

特定非営利活動法人 山王学舎

地域の子ども達の学習格差をなくす「美術と学び」支援事業

福岡市NPO活動推進補助金を活用し、2018年度より特定非営利活動法人山王学舎は、地域の子ども達の学習格差をなくす「美術と学び」支援事業を実施。2019年度は2年目の事業となります。

福岡市博多区地域の課題は、多様な子ども達が学校以外の公的な養護養育の仕組みに漏れ出している現状があります。みんなが集まることが出来る居場所への要望は非常に大きいものでした。学校と家庭とは違う、地域で子ども達を見守る「第3の居場所」作りと地域の家庭間のネットワーク作りは急務と考えました。

事業実施期間

2019年8月27日(火)～2019年3月26日(火)

事業実施場所

福岡市博多区博多駅南6丁目5-2 山王学舎

事業対象者

地域の様々な課題を抱えた、小学生・中学生及び保護者

私達山王学舎の取り組み 二年目は、下記の6つの事業を進めました。

- ① 子どもの自学・学習習慣化支援活動(小学校低学年・高学年・中学生)
- ② 子ども達の異年齢・文化交流コミュニケーションとしての美術・造形活動
- ③ eラーニングによる次世代学習の取り組み(中・小高学年)
- ④ 参加している子どもの支援における効果測定(定期的な学びの測定)
- ⑤ 参加している家庭のサロン・意見交換会の開催
- ⑥ 遊びとしての学舎への参加

① 子どもの自学・学習習慣化支援活動(小学校低学年・高学年・中学生)



② 子ども達の異年齢・文化交流コミュニケーションとしての美術・造形活動



eラーニングによる次世代学習の取り組み(中・小高学年)



④ 参加している子どもの支援における効果測定(学年別習熟度に合わせた定期的な学びの測定)



⑥遊びとしての山王学舎への参加→山王学舎に慣れて来たら学びへ移行



二年目の成果として

- 不登校気味だった子どもが、保護者のつながりから、参加を始め定期的に通うようになった。
- 学習習慣が不規則な子どもが、山王学舎で学びのリズムが出来るようになった。
- 美術や工作を教えてくれる先生が沢山いることで、美術工作が好きな子どもが多くなった。



結果

一年目より、保護者や地域のつながりや口コミでの参加が増加した。
子育ての困りごとを保護者が話してくれるようになった。(信頼)

① 二年目事業から見えた課題・新しい取り組みへの成果はどうだったか？

学びの時間：期間中延べ**380名** 計画時を達成

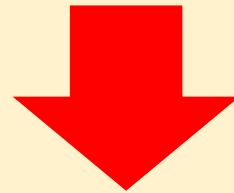
美術の時間：期間中延べ**177名** 計画時を達成

遊びの時間：期間中延べ**24名** 計画時より未達

Eラーニング：期間中延べ**35名** 計画時を達成

② 二年目事業から見えた課題・新しい取り組みへの成果はどうだったか？

放課後の子ども達の居場所を作り上げる(ならば、勉強だけでない場所も)



遊びの時間を作り、遊び担当の先生も配したが、参加者は少なかった。

結果は、「学び」ではなく、「遊び」に参加費を出してまで通う家庭は少なかった。
来期の課題として、「遊びの」大切さを伝える広報が必要。

子ども同士は、遊びたい時間も必要だったが、何より保護者への理解の浸透が重要だった。

③ 二年目事業から見えた課題・新しい取り組みへの成果はどうだったか？

事業の自己収益化を目指すために、受益者負担を200円から300円に増やした。



年間を通じての総参加者は減少した。

受益者総収入は一年目と二年目で変化は見られなかった。

負担が増えたことで、しっかりと勉強しようといった動機付けは家庭や子ども達の中に増えた。

昨年に引き続き、NPO活動推進補助事業に申請したきっかけ・動機

①補助事業に参加・活用することで、受益者の費用負担の軽減が見込める

②補助事業による団体信用力の向上

・受益者・保護者・地域・教育関係者への信用

③団体自身の事業遂行力の向上

- ・事業企画
- ・事業実施
- ・事業報告

上記を自主事業ではなく、補助事業に応募することで、客観的な事業遂行力の獲得を目指す

そして、それは

中長期的に山王学舎が目指す目標

今回の補助申請事業は、私達の目指す総事業の内、3分の1を占める大変重要な取り組みです。また、この分野に取り組まなくては、子ども達の放課後健全育成事業として不完全なものになると考えています。

「居場所・食事・学び」の多層的な取り組みを、福岡市博多区で今まで取り組んできた教室事業ノウハウに加えて運営したいと考えています。そして取り組みを広く福岡市の様々な地域で起きている課題にも当てはまる課題解決の道筋を提言化し、是非他の区や全域で取り組んで行きたいと考えています。

地域そのものが子どもを通じて、地域の再構築を目指す

ご清聴ありがとうございました



特定非営利活動法人

山王学舎

sanno-gakusha